



ひめゆり総業株式会社

〒973-8407

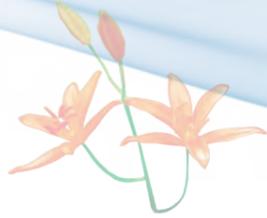
福島県いわき市内郷宮町町田105番地

TEL.0246-26-4111 FAX.0246-38-4242

<https://himeyuri-sougyo.com/>



私たちは、環境事業を通して社会と産業に貢献し、豊かな自然を未来に繋げます。



事業内容

ひめゆり総業株式会社は、産業廃棄物の最終処分、収集運搬を中心に環境保全と持続可能な社会の実現を目指した事業を展開しています。燃え殻、汚泥、ばいじん、がれき類など14種類の品目を取り扱い、法令基準に基づいた安全かつ適正な処理を徹底しています。そして、廃棄物処理に関するコンサルティングを通じて、排出事業者の課題解決を支援し、効率的かつ環境に配慮した廃棄物処理を提案します。

産業廃棄物の収集運搬

各種事業所から排出される産業廃棄物を適正かつ安全に収集し、処理施設まで運搬します。



産業廃棄物の処分

■ 最終処分（埋立処分）

ひめゆり総業株式会社が保有する最終処分場において、環境基準に適合した方法で産業廃棄物を埋立処分します。

■ 取扱品目は以下の14種類

詳しくは、QRコード(公式サイト)よりご確認ください。



コンサルタント業務

産業廃棄物の適正な処理やリサイクルに関するコンサルティングによって、排出事業者の課題解決を支援します。

環境方針

■ 基本理念

ひめゆり総業株式会社は、当社が行っている廃棄物処理事業が地球環境問題と深い関わりがあることを認識し、事業の管理運営を適正に行うことによって環境への負荷低減を図ります。また、誠実な企業活動を通して地域の方々との共生を図り、持続可能な社会の形成に貢献し、安心できる美しい地球環境を未来へ繋いでいきます。

■ 方針

1. 産業廃棄物の適正処理を通じて環境への負荷低減を図り、環境汚染の予防に努めます。
2. 地域社会の一員として人と自然との共生を図ります。
3. 環境関連法規およびその他の法令ならびに社会的規範を遵守します。
4. 環境への取り組みの定期的な見直しを行い、継続的な改善を図ります。
5. 環境教育を通して地球環境保全への意識向上に努めます。この環境方針を従業員全員に周知し、広く社会に公開します。

ひめゆり総業株式会社の独自の強み

高度な設備と技術力

最終処分場の浸出水処理に省エネルギー性と環境負荷低減を実現するアナモックス生物処理法を採用。高度な運転技術により条件の最適化を図り、安定した処理性能を確保しています。

総合コンサルティング力

産業廃棄物の適正な処理やリサイクルに関するコンサルティングを提供し、排出事業者の課題解決を支援します。当社はこれらの事業を通じて、廃棄物の適正な管理と自然環境への負荷低減に貢献しています。

クレハグループ総合力

株式会社クレハ環境の焼却炉では、処理が困難な特殊な廃棄物に対応できる技術があります。連携によって処理が難しい廃棄物の問題解決の機会を提供します。また積み重ねてきた経験とクレハグループのノウハウを融合することでより包括的なサービスを提供します。

安心して任せられる実績

- エコアクション 21 認証
 - 産業廃棄物処分業許可証 (優良認定)
 - 産業廃棄物収集運搬業許可証
 - 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可証
- エコアクション 21
- 詳しくは、QRコード(公式サイト)よりご確認ください。



CSR活動

■ ひめゆり監査委員会

平成9年、平太郎処分場造成を契機に皆さまの意見をお聞かせいただく場としてひめゆり監査委員会を設立しました。年2回の業務視察と各種情報の開示・意見交換をしています。長い時間をかけて地域の皆さまと共に築いてまいりました信頼関係は、ひめゆり総業株式会社の大切な宝です。

■ ひめゆり総業発電所

埋立が完了した処分場の利活用と環境活動の一例として、平成25年11月に太陽光発電設備を設置しました。当設備は地球温暖化対策として非常に有効とされています。

■ ひめゆり総業施設見学会

産業廃棄物について興味を持ってもらうことを目的として、定期的に見学会を実施しています。小学生から中学生までの子供たちへ向けて展示室の見学後、処分場が見下ろせるポイントを実際に見ながら処分場の面積や容量、廃棄物の種類について理解していただけるように活動しています。

■ 災害廃棄物処理

当社は、災害時における廃棄物の受け入れを通じて、地域のインフラとして皆さまのお役に立ちたいと考えています。過去の受入実績につきましては、QRコード(公式サイト)よりご確認ください。



▲太陽光発電設備



▲見学会の様子



▲台風19号仮置き場(2019年12月)の様子

会社概要

| | |
|------|--|
| 社名 | ひめゆり総業株式会社 |
| 代表者 | 代表取締役社長 安島 司 |
| 所在地 | 〒973-8407 福島県いわき市内郷宮町町田105番地 TEL.0246-26-4111 FAX.0246-38-4242 |
| 事業範囲 | 産業廃棄物の最終処分(管理型埋立) |
| 創立年月 | 1968年7月(昭和43年7月) |
| 資本金 | 3,000万円 |
| 従業員数 | 23名(2025年3月末現在)*役員除く |
| 加入団体 | 公益社団法人全国産業資源循環連合会 一般社団法人福島県産業資源循環協会 |

グループ会社

| | |
|----------------|--|
| 【加工・製造・販売】 | 株式会社クレハ クレハエクストロン株式会社 レジナス化成株式会社 |
| 【環境保全】 | 株式会社クレハ環境 日本メディカル・ウェイスト・マネジメント株式会社 |
| 【物流】 | クレハ運輸株式会社 |
| 【建設】 | クレハ建設株式会社 |
| 【リサーチ & アナリシス】 | 株式会社クレハ分析センター |
| 【商社】 | 株式会社クレハトレーディング |
| 【不動産・保険・サービス】 | クレハサービス株式会社 株式会社さんしゃいんクレハ |
| 【医療】 | 社団医療法人 呉羽会 |

産廃情報ネット
情報公開 (業者番号038881/
ひめゆり総業株式会社)



会社沿革

| | | | |
|----------|--|----------|-----------------------------|
| 1968年 7月 | 有限会社ひめゆり設立(資本金100万円) 本店:福島県いわき市内郷宮町町田62の1番地 | 1996年 5月 | 福島県より平太郎処分場の設置許可取得 |
| 1970年 1月 | 社名をひめゆり総業株式会社に組織変更 (資本金を250万円に増資) | 1997年 5月 | 平太郎第一期処分場完成 |
| 1970年 6月 | 本店を福島県いわき市内郷宮町町田105番地に移転 資本金を500万円に増資 | 2000年 3月 | ひめゆり監査委員会設立 |
| 1972年 8月 | 福島県より産業廃棄物処分業、収集運搬許可取得 | 2004年 8月 | いわき市より平太郎処分場の施設変更許可取得 |
| 1977年11月 | 福島県産業廃棄物協会会長に太田 忠雄就任 | 2005年10月 | 平太郎第二期処分場完成 |
| 1982年 8月 | 資本金を3,000万円に増資 | 2009年12月 | エコアクション21認証登録(登録番号 0004463) |
| 1985年 7月 | 社団法人全国産業廃棄物連合会会長に太田 忠雄就任 | 2012年12月 | いわき市より優良産業廃棄物処理業者の認定 |
| | | 2016年 6月 | いわき市より平太郎処分場の施設変更許可取得 |
| | | 2018年 6月 | 平太郎第三期処分場完成 |
| | | 2019年 4月 | 株式会社クレハ環境の完全子会社化 |

浸出水処理施設について

水質汚染を防ぐために、 高度な技術が要求される浸出水の処理

廃棄物最終処分場の浸出水は、成分を特定できない BOD 成分や COD 成分、窒素成分等、水質汚濁の原因となる物質を含み、その濃度及び水量が大きく変動することが特徴です。

浸出水は、放流する前に水質汚濁の原因となる物質を除去する必要があります。

当社では現在 2 つの浸出水処理施設が稼働しています。

第 1 浸出水処理施設では、水質汚濁物質の濃度変動に強く、汚水の飛沫や臭気による二次公害のない酸素活性汚泥法（ユノックス・システム）を採用しています。

第 2 浸出水処理施設では、脱窒素処理の工程において、従来の生物処理よりも環境負荷の小さいアナモックス法生物処理と、水質汚濁物質の濃度や浸出水量の変動に強い電気分解処理を採用しています。

当社では、長い経験を持つ技術者による運転管理を行っており、法令で定められた放流基準を達成したうえで、処理水を河川に放流しています。



第1浸出水処理施設による処理フロー



第2浸出水処理施設による処理フロー



アナモックス法生物処理設備

従来の生物処理技術と比べて下記のようなメリットがあり省エネ効果が高い設備です。

1. 曝気量を低減できる
2. 汚泥処理量を低減できる
3. 設備を小型化できる
4. 有機炭素源の供給が不要

電気分解処理設備

この設備は下記のような特徴があり外的要因の変動に強い設備です。

1. ON/OFF が可能なため必要に応じて運転できる
2. 処理量のレンジ幅が大きいため処理量変動に対応可能
3. 電気出力の調整により窒素化合物の濃度変動に対応可能
4. 大雨時などの急な処理量増加に対応可能



埋立処分場について

技術の進歩に合わせて、
環境に対する負荷を最小限に抑える工夫



映像による施設紹介動画はQRコード(公式サイト)よりご確認ください。

| 平太郎処分場 | |
|--------|----------------------------|
| 許可年月日 | 2016年6月1日(平成28年6月1日) |
| 許可番号 | い廃F第9号 |
| 埋立地面積 | 83,039㎡ (第1期・第2期・第3期合計) |
| 埋立容量 | 1,341,198㎡ (第1期・第2期・第3期合計) |

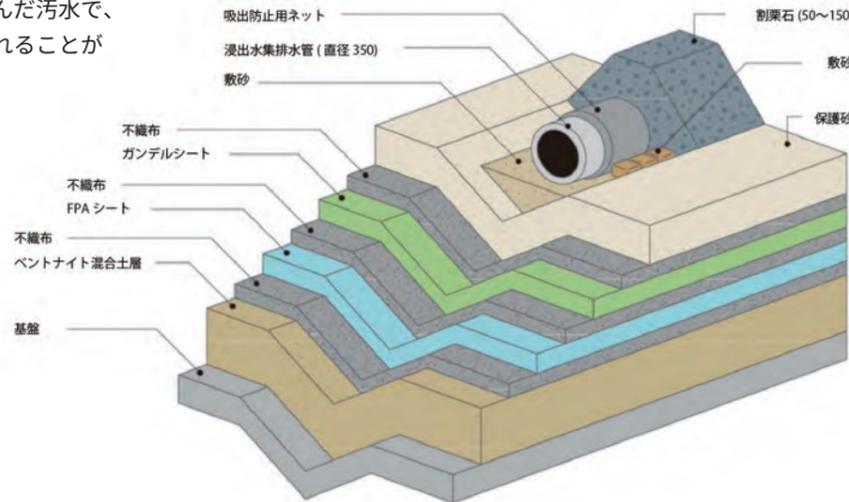
平太郎処分場の特徴

POINT 01 強固な地盤改良

埋立地の底部にはかなりの荷重がかかり地盤が圧縮されます。
圧縮による遮水シートの破損を防止するために、地下の岩盤と同程度の強度に地盤改良を行っています。

POINT 02 浸出水の地下浸透を許さない

浸出水は処分場からしみ出る廃棄物の成分を含んだ汚水で、
水処理を経て無害化するまでは処分場の外に漏れることが
あってはなりません。
当社の処分場の遮水構造は、図の通りです。



法面部

ベントナイトの替わりに、二重シートの下側に自己修復型シート※1を施し安全性を向上

底盤部

二重シートのほか、最下部にベントナイト混合土※2(人工粘性土)を転圧・締固施工し二重三重の対策

※1 自己修復型シート
高吸収樹脂を不織布で包みポリエチレンコートした自己修復遮水シート。
シートを鉄筋等が貫通しても内部の高吸水性樹脂が膨張し、貫入物の周りをシールする形で遮水します。
※2 ベントナイト混合土
水分を吸収すると、ベントナイトが膨張し、シートにできた穴などを塞ぐことができます。
万一、二重シートが破損してもこのベントナイト混合土層が浸出水の地下浸透を防ぎます。

POINT 03 長年の処分場運営を設計に生かす

浸出水の集水管には、浸出水の排出と、処分場内部に空気を取り込むという重要な役割があり、処分場を廃止するまで長期間にわたり使い続けることになります。
そのため、スケーリングによる閉塞等で浸出水や空気の通りが滞ることがあってはなりません。
第三期処分場では、長年の処分場運営の経験を生かし、通常であれば400~600mmとするところを、1,000mmの集水管を設置しました。

処分プロセスの一例

01 搬入

運び込まれる産業廃棄物は、重量を測り中身を厳重にチェックする

02 確認

どこからどれだけ廃棄物が搬入されたかを確認する

03 廃棄物埋立

確認を終えた廃棄物は、覆土と交互に積み重ねて埋め立てる

POINT

保有水等による地下汚染を防止するために、貯留構造物や二重構造の遮水工によって埋立地内部と外部を遮断する。

04 浸出水処理

埋め立てた廃棄物は、雨水により汚れが落ちて地下に染み込み、すべて浸出液処理施設に送られて処理される

05 放流

自治体等の排水基準を達成して、初めて外の河川に放流される

POINT

雨水が廃棄物を通り抜けて集められた水は、浸出水集排水管を通して、浸出液処理施設へ流入させて処理。安全な状態で放流される。

06 情報提供・管理

定期的に、周縁のモニタリングを実施。安全かつ適正に管理する

平太郎処分場のあゆみ

| 平太郎第一期処分場 | |
|-----------|------------|
| 埋立容積 | 238,163㎡ |
| 埋立期間 | 平成9年~平成17年 |

| 平太郎第二期処分場 | |
|-----------|-------------|
| 埋立容積 | 245,000㎡ |
| 埋立期間 | 平成17年~平成26年 |

| 平太郎第二期処分場 拡張部 | |
|---------------|------------|
| 埋立容積 | 175,285㎡ |
| 埋立期間 | 平成26年~令和2年 |

